

# ほかほか

2020  
6

No.134



## 目次 (contents)

- 牛乳チャレンジ撮影実施・巡回ドック日程のお知らせ・JAカレッジ学生募集 … ②
- 金融チラシ ……………… ③
- JAグループ北海道座談会 持続可能なJAの事業運営を考える① … ④
- 別海高校より ……………… ⑧
- 営農のページ (酪農試験場) ……………… ⑨
- JAグループ通信 ……………… ⑩
- 北海道地域農業研究所だより ……………… ⑪
- 営農のページ (普及センター) ……………… ⑫
- 理事会報告・まちがいさがし ……………… ⑬
- 4月生乳生産・乳代単価情報・今月の運勢・編集局から ……………… ⑭



あさひ四兄弟

長男 たいよう・次男 だいち  
長女 みどり・次女 みらく



## 牛乳チャレンジ撮影実施

新型コロナウイルスの感染拡大により、学校給食牛乳の停止や、外出自粛に伴う外食機会の減少により、牛乳・乳製品の需要が大幅に減少しております。

そのため、道では「かつて北海道くSOS！牛乳チャレンジ」により、牛乳を飲んでいる姿の動画を投稿してSNSのフォロワーに牛乳の消費を呼び掛けています。

当JAも「SOS！牛乳チャレンジ」に参加しましたので、ぜひご覧ください。

根室振興局 農務課 facebookページ

[https://www.facebook.com/](https://www.facebook.com/nemuronoumu.hokkaido/)

nemuronoumu.hokkaido/



## 巡回ドック日程のお知らせ

JAでは、営農する上で健康管理は非常に重要な位置づけとして、組合員とその家族を対象に健診料の助成を行っています（オプション料金は自己負担）。夏季の農作業繁忙期と日程が重なりますが、生活習慣病の予防、疾患の早期発見等の面から、巡回ドックを是非受診下さい。巡回ドック健診の申し込みにつきましては、各支所にて取りまとめを行いますので、案内をご確認の上、お申し込み下さい。

### ■上春別支所

8月4日(火)～5日(水) 午前6時～午前11時

### ■別海支所

8月18日(火)～21日(金) 午前6時～午前11時

### ■西春別支所

8月24日(月)～26日(水) 午前6時～午前11時

### ■根室支所

9月24日(木)～25日(金) 午前6時～午前11時



# JAへ100%就職

(令和元年度就職希望者実績)

## 令和3年度 第1回学生募集

大学・短大・専門学校  
高校生大歓迎

- 定員60名 ●男女共学 ●1カ年、全寮制 ●満24歳未満(令和2年4月1日現在)
- 大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日：9月11日・12日 ●願書受付：7月1日～8月13日消印有効 ●学校見学もできます

JAグループ職員養成校

お問い合わせ  
資料請求

# JAカレッジ

一般財団法人 北海道農業協同組合学校  
〒069-0834 江別市文京台東町43-1  
☎0120-918-417 JAカレッジ

JAバンク北海道で新たにお取引すると、抽選でさしあげマスぞう!

**年金受取で!**

年金振込口座のご指定

**給与受取で!**

給与振込口座のご指定

**JAネットバンクで!**

JAネットバンクのご利用開始

**JAカード入会で!**

JAカードのご入会

**JAバンクローンで!**

JAバンクローンのお借入



受付期間中に、  
上記のいずれか1つでも  
新規取引された方に

※各期受付期間中に  
貯金残高  
1,000円以上あることが条件

**JA特産品を1品**

抽選で  
最大

全道

**4,500名様に  
プレゼント!**



**対象条件** 受付期間中に、年金振込、給与振込、JAネットバンク、JAカード、JAバンクローンのいずれかの新規取引された方

**抽選権** 新規で対象取引された方、1取引につき1口が、応募口数となります。さらに、対象取引された方で、JAバンクアプリをご利用の場合、1口加算いたします。(最大6口)

**応募方法** JA窓口で配布する応募用紙にてご応募ください。

JAバンクアプリのご利用で  
1口追加しマスぞう!

応募受付期間	第1期	第2期	第3期
	受付期間 4/1(水)~6/30(火)	受付期間 7/1(水)~9/30(水)	受付期間 10/1(水)~12/30(水)
	当選者 1,500名	当選者 1,500名	当選者 1,500名
	当選発表 2020年9月頃予定	当選発表 2020年12月頃予定	当選発表 2021年3月頃予定

※同一人の年度内重複当選はありません。

**JAバンクアプリ**

スマホアプリから、口座残高がすぐ確認できる。



アプリのダウンロードは  
こちらから

JAバンクアプリ 検索



**留意事項**

●当選者の発表は、カタログギフトの発送をもって代えさせていただきます。抽選結果に関するお問い合わせは受け付けておりません。●当選後の権利の譲渡、賞品の交換・換金には応じられません。●賞品のお届け先はJAに届け出されている住所に、宅配もしくはJAの担当者より直接お届けします。(個人情報のお取扱いについて:応募用紙にご記入いただいた情報は、プライバシーポリシーに則り適正に管理します。また賞品発送に利用させていただきます。応募情報は、お客様の同意なしに業務委託先以外の第三者に個人情報を開示・提供することはありません)



【4月号からの続き】

特集

## JAグループ北海道座談会 持続可能なJAの事業運営を考える 下

## 【出席者】

- 小林 国之 北海道大学大学院農学研究院准教授  
 柴田 倫宏 JA北海道中央会専務理事  
 宮本 英靖 JAピンネ代表理事組合長  
 佐藤 正昭 JAこしみず代表理事組合長

出典：『北海道協同組合通信2020新春特集号』  
 「持続可能なJAの事業運営」北海道協同組合通信社



## 労働力確保や施設整備で支援

小林 農協の事業運営について、経営的な見通しはなかなか厳しいが、組合員と向き合い、結集力を高めることで事業を持続させていくという話があった。実際に農協で力を入れて取り組みをご紹介いただきたい。

佐藤 大切なのは生産力をきちんと上げることだが、うちも農家戸数の減少に伴って1戸当たりの耕作面積が増えている。そうになると、手間がかかる野菜などが減り、だんだん畑作3品中心の経営に戻ってしまおう。これでは輪作の面でもよくない。一番の問題である労働力不足に対応するため、3年前に農作業支援事業を立ち上げた。今は外国人技能実習生と日本人合わせて15人おり、ニーズに応じて労働力の不足している農家などが活用している。

2つめは耕畜連携で、うちは畜産が販売高の2割ほどしかないが、条件が悪い農地を吸収してもらったり、安定的に堆肥を調達する上でも、畜産振興は地域にとって重要な課題だ。そこを重点的にやろうということで、酪農で数千ト規模の牛舎をつくる構想を立ててからもう5年も経つ。畑作地帯だからなかなか場所がない。そのため、今

は離農する酪農家の牛舎を農協が借り上げ、そこからスタートしようと考えている。まずは生産力を維持することと、地域から人を減らさないこと。そのためどんな仕組みをつくるか。黙っていても衰退の道しかないが、いろいろなことをやってみれば自然と人は集まってくるものだ。

また、畑作関係では新たな輪作体系の確立と併せて「畑作対策基金」の創設を検討している。

宮本 われわれのところは農地の8割が水田であり、中心となる米の生産性を高め、それをいかに集荷して有利販売していくかが農協の使命と考えている。1戸当たりの経営面積は平均16

畝と、離農に伴ってこの10年間で2倍になっている。その中で米の施設については、行政の支援も受けながら新十津川町と浦臼町に1カ所ずつ、1万トの米ばら貯蔵施設があるが、3つめの1万トクラスを半乾ばら施設で整備したいという構想を持っている。現状の施設規模ではだんだん足りなくなってきたので、次の策を打たなければ組合員の規模拡大に対応できない。遊休農地はなく、これからも1戸当たりの面積は増えていくだろう。農協の使命を果たす上で、まずは施設が必要だと考

えている。

もうひとつは、国のスマート農業実証プロジェクトの個人経営型に新十津川町の個人の農園が採用され、無人化・省力化に向けた機械導入に取り組んでいる。すでにドローンや田植え機については、行政と連携して助成金対応の中で導入を進めており、こうしたスマート農業にも地域を挙げて取り組んでいきたい。これらハード・ソフトの両面から、地域の作付面積を維持し、生産力を高めていくことにより、それが総合事業の中で、金融や共済、経済事業にもつながっていくという考えだ。

また、地方の農協は、行政や地域の皆さんと一体の組織、社会のライフライン的な組織と位置付けられている。そのため、町の政策と共同で事業展開をしたり、逆にわれわれの取り組みに行政が入っていただくなど、そこは相互に参画していかねばならないと思っている。今も要請があれば、農協事業とはまったく関係がなくても、組織体をつくって行政と一緒にやるし、そうすることによって、財政面を含め、農協の事業に対して行政から支援をいただける部分もある。

**生産性を上げるために必要な経費**

**小林** 農協としてやらなければいけないことが増える一方で、経営の効率化も進めなければならぬ。これまで北海道の農協は、例えば生活店舗を外部位化したり、人件費などの事業管理費を削減しながら、何とか経営の合理化を進めてきたと思うが、今後を考えると、事業の外出しもある程度終わり、人件費の削減も限界にきている。加えて国からは「働き方改革」が求められており、これからどう効率を上げていくのかというところも課題。実際問題としてこれ以上、人を減らすわけにはいかないだろう。

**宮本** 逆に増やさざるを得ないのが現状で、すでに米の調製施設などは、働き方改革に対応するため、2班から3班集体に変更しており、青年部の皆さんに手伝わってもらって何とか人手を確保している状況だ。  
加えて事業管理費も上がる。特に大きいのは管理部門のチェック機能で、すべてにおいてダブルチェックが必要、ひとりで対応してはいけない、行動するときも2〜3人で動くようにとの監査指導が入っており、これによる人件費の上昇が大きい。

**佐藤** 事業管理費は間違いなく上がる。下がることはないだろう。特に、農作業支援事業などをやると農協全体で抱えるコストは上がっていく。加えて一番困っていることは、地方にはなかなか良い人材が集まりにくくなっていくこと。大学と連携してインターンシップをやりながら人材確保に取り組んでいるが、そこが難しくなってきた。女性職員もかつては8割が準職員だったが、もう正職員でなければ定着は望めない。社会環境の変化に合わせて、資格試験なども活用しながら、段階的に正職員にしていかなければだめだろう。

**宮本** うちも準職で採用しても、初級の資格を取れば3年後には正職員の道を約束している。皆さん試験に真剣に取り組んでくれており、正職員になった後は管理部門以外も経験させるよう人事も合わせて対応している。

**小林** 事業管理費の上昇は避けられない状況だが、小清水の農作業支援事業などはまさに農家をサポートする素晴らしい取り組みだ。今後、部門としての収益性についてはどう考えているのか。

**佐藤** そこが問題だ。派遣先の農家個々からはそれぞれいただくが、支援

事業はこれから先、農協の基幹的な事業になると思う。そこは、将来的に営農指導の対価をどうするのかということを含めて考えていく必要がある。同時に、町の基幹産業を育てるためには行政の支援もいただきたい。酪農の法人化の話も、町と農協が出資する形で、しっかりと経営管理しながら進めていきたいと考えている。そこで掛かるコストについても内部でしっかり議論していかなければならない。生産性を上げるために必要な経費だということを、組合員の皆さんと共有しなければできない話ではない。今こそ協同組合として、組合員にも意識変革を求めていかなければだめだろう。

**小林** 農協の仕事は農産物の販売など目に見える事業だけでなく、地域に関わるさまざまなことがある。それが経費でいうと事業管理費として出てくるわけだが、今後はどこかの段階で、手数料や賦課金のあり方を含め、農協の営農指導事業とは何かという話を整理して、個々の農協でどこまでやるのか、それをやるためにはどれだけコストがかかるのか、ひとつひとつ議論していくことも必要になってくるだろう。

**宮本** 実は、うちは2008年まで営農賦課金をもらっていないかった。旧

新十津川農協は賦課金がなかったもので、98年の3農協合併の折に、合併しても賦課金はもらわず、そのため営農指導にかかる資金は総合事業の中でやりくりしていたが、営農渉外課を設けたのをきっかけに賦課金をもらうことにした。水準は空知管内の平均で組合員1人当たり1万円、水田は10万円当たり200円で、6万円が上限。これについては組合員から大きな反対もなく理解いただくことができた。

**佐藤** うちも賦課金はもらっているが、施設を建てる時に出資金はもらずにやってきた。農協経営の中でしっかりと内部留保し、自分たちの努力でやるという方針だったから。ただし、これからはそうは言っていられない時期がくると思う。これから考えられるのは、手数料そのものを上げるのは無理だと思うが、コストとして掛かるものはいただくという形だろう。

一方、もうらうばかりではなく、うちは事業分量配当で毎年約1億円を組合員に戻している。300戸強だから1戸平均30万円ほどだが、それを経営主の退職金として積んでいる。10年経てば300万円、20年経てば600万円になる。農家には退職金制度がないので、農家の経営管理のひとつとして、



そういう仕組みも考えておかなければならない。税金対策も同じで、相続や贈与税など総合的な税対策となるとあまり準備していない人も多く、農協がサポートしていかなければ。農家の経営を守るためにはそういう仕組みも必要だし、農協の経営にとっても重要になっている。

**柴田** 今回の事業基盤に関する検討に関しては、農水省も全国の農協に対し、営農指導を含めた経済事業を黒字化するよう指導しているが、最近では赤字だからすべてだめだというのではなく、農協が総合事業をやっていく中で、全体としてコントロールできているのであれば問題ないのではないかと、という言い方になってきている。経済事業は黒字にしてほしいという本来の思いはありつつも、例えば都市型農協などであれば、黒字までいかなくても賦課金をもらうことで「きちんとコントロールできている」と言えるのなら、外からいろいろ言う必要はないのではないかと。当然、コントロールできていないところに対しては厳しい対応になるが、農水省内でも少し流れが変わってきたように感じる。われわれとしてもそれに沿って取り組んでいきたい。

その中で金融事業をめぐる環境が厳しいというのは共通した課題であり、この先も持続可能な経営基盤を確立する上で、それぞれの農協が自分たちの強みや弱みを考えて取り組んでいくということだと思う。奨励金など環境の変化に応じて各農協で毎年シミュレーションを繰り返しながら、中央会もそれを共有し、収支の改善見通しや安定的な収支を確保するためにはどうあるべきかなど、その農協に合わせたお手伝いをしていきたいと考えている。

ただし、この間、農協改革などを通じてさまざまなことがあったが、農協に対する社会の意識も変わりつつあるのではないかと。江藤農水大臣の就任あきつでも、これだけ全国で災害が毎年ある中で、地域のJAのあり方については、本来の経済事業だけでなく、地域への貢献などをきちんと評価しなければだめだと発言していたし、併せて家族経営の位置づけをどうするのかという問題提起もしていた。時の大臣がああいう発言をしたのは重要なこと。潮目が変わってきたのではないかと感じていた。

**佐藤** 農水省も農協改革の中で農協に対していろいろと厳しいことをやってきたが、中身をよく調べてみると、

逆に協同組合が地域でどういうことをやっていたのか、見えてきたのではないかと。私自身、「自分たちが進んでいる道は間違いない、正しかったんだ」と改めて感じている。

**小林** これからは「正しかった」ということをもつと声に出し、内外にわかりやすく伝えていくことが重要だろう。全国の農協でも組合員との対話として職員訪問などを実施しているところがあるが、ピンネの営農渉外課や清水の農作業支援事業などの取り組みは全国でも驚かれる事例だと思う。中央会と連携し、北海道からも是非いろいろな形で発信していただきたい。清水では農作業支援事業に人を呼ぶためラジオ番組などの媒体もどんどん活用して発信している。

**佐藤** やるほうは大変だが、ラジオを聞いて実際に人が来てくれれば達成感があり、また頑張ろうとなる。その積み重ねが大事だと思う。

農作業支援事業に関しても、町内で廃校になった高校の跡地を活用して拠点施設をつくろうと今動いているが、その構想を上げてきたのは職員。かなり大きな施設だし、ランニングコストもかかる。これは大変だと思ったが、一緒にやっていくと形ができて

くる。やらなければ何も生まれないが、やることによって何かが生まれる。衰退よりは何かすること。それを職員が自分たちで考えて提案してきたところに心を打たれた。総代会で反対されればできないが、農協はそういう組織であり、組合員が受け止めることも大事だと思う。

**柴田** 職員の思いがそのような形で積み上がってくると、今度は理事者も組合員の皆さんに理解してもらおうと頑張る。そうしたひとつひとつの積み上げが、協同組合運動の原点という気がする。

### 事業間連携など結び付き柔軟に

**小林** 持続可能なJAのあり方というところで私が感じているのは、今は北海道に108JAがあり、これから少し合併が進む可能性はあると思うが、例えば事業間連携など、JA同士がもっと有機的に結び付くことによつて、コスト面では事業管理費を削減したり、販売面ではより機敏な対応を可能にするといったことも求められていくのではないかと。

**佐藤** オホーツク管内は14農協あり、うちを含めて合併はそれほど進んでい

ないが、これからは管内14農協が連携し、共通の課題を持ち寄りながら、将来のビジョンをつくっていくことが大事だと思う。その中で事業間連携に関して言えば、うちにはオホーツク農協連がある。小さな農協は人材確保が大変なので、各農協ではできないような事業の中身を精査し、それに対応できる人材をオホーツク農協連に集め、いつでも相談できるような組織にしていきたいと考えている。全道的な課題には中央会が対応してくれるが、管内特有の悩みというのもある。農協の駆け込み寺ではないが、オホーツク農協連を核にして、単体の農協事業のことだけでなく、組織全体で地域を守り、共有のオホーツクブランドを大切に育てていくという、もっと広いところに向けていかなくてはだめだと思う。また、そうした相互的な取り組みを進めることによって、それを見ている組合員にも、協同組合やJAグループの大切さが自然と伝わっていくのではないかと考えている。

**宮本** うちも事業連携に向けた新たな取り組みとして、中空知地域のJAたきかわ、JA新すながわ、ピンネの3農協の間で選果施設の共同利用を検討してきた。青果物などの選果施設は各農協で持っているが、水田の規模拡大に伴い、どこの農協も野菜の生産規模が小さくなってきている。そのため3農協で事業連携を組み、共通する品目の選果施設を共有化できないかというのを5年前に提案し、最初に花きの集荷・選果施設で実現することができた。JA新すながわの花をうちの施設で選別し、産地もしっかり明記しながら出荷している。また、たまねぎはJA新すながわが広域の事業連携で中心的な役割を担っており、この部分でも何とか中空知3農協で事業連携が組めないかという提案をしている。このほか、アスパラ、いんげんなども、それぞれの農協で小規模な施設を持っているが、地域で連携が取れないかと提案している。時間はかかるかもしれないが、規模が縮小して施設を維持できないが、規模が縮小して施設を維持できない前にも、何とか2つ、3つの事業連携を形にしていきたいと思っ

**佐藤** 施設をまとめるのは大変だ。オホーツクでもビーンズファクトリーをつくったが、あれは実現するまでに5年ぐらいかかった。管内のどん粉工場の再編も同じで、ようやくひとつ区切りがつくが、これは10年かかった。一度まとまれば行政などの支援も得られるが、やはりわが町、わが農協という思いがあるから時間がかかる。しかし、いよいよひどくなってからでは遅い。先の話をしていかなければ。  
**柴田** 厳しくならないとまとまっていけないというのはまったくそのとおりで、ピンチをチャンスとして捉えなると、事業間連携などの話は出てこないと思う。例えば農協合併についても、今までのようにどんどん進めればいいとは思わないし、皆さんが考えた結果が単独での総合事業体だとすれば、その体制を維持していくためにできることは何か、各農協や地域で考える土壌が出来つつあるというのは、ある意味チャンスだと感じる。その中には、いろいろな事業間連携もあれば、施設の効率利用もある。それをどの範囲でやるのか。地域や事業内容によって、オホーツクのような地区単位でやることもあれば、中空知のような農協単位でやれるものもある。そういう皆さんの協議の場に、われわれ中央会やホクレン、信連など連合会が入りながら、JAグループの役割を北海道全体で考え直し、トータルコストを圧縮しているように、中央会としてもできる限りのことをしていきたい。

また、全国的に持続可能な事業運営のあり方ということで出てきているのは、金融店舗やATMの集約化などを通じて浮いた人員を対話型の業務に回すというのが大きな柱になっている。そう考えると、ピンネの営農渉外課などはまさにそれだし、小清水の農作業支援事業を含め、全国の動きを先取りした取り組みが道内で動いていると言える。北海道からこうした事例を積み上げ、全国に発信していく必要があるだろう。  
**小林** これまで組織基盤の強化については、最初に合併目標を掲げ、そこに向かって北海道もやってきたが、今は各JAの考え方を最優先し、単独でいくのであれば支援していきましようというスタンスに変わっている。そこをこれからも大事にしながら、農協のあり方をもう少し広い視野から柔軟に考えていければ、JAというのは十分に持続可能な存在であり、再評価されてきている部分もある。これまでやってきたことに自信を持って取り組みつつ、まずは組合員や地域の人たちに理解してもらいながら、外にも発信していただきたい。今日はありがとうございます。  
(おわり)

## 別海高校 酪農経営科・専攻科

### ●【経営科】牧草見本園の整備

5月上旬に酪農経営科基礎圃場の通路側を利用して牧草の見本圃場整備を行いました。道内や根釧地域で利用されているイネ科牧草・マメ科牧草・デントコーンの見本品種を生徒がいつでも見るように並べて作付けしています。種子は道東あさひ農協・雪印種苗・カネコ種苗・タキイ種苗よりご提供いただいたものを利用させてもらっております。



イネ科牧草見本園



マメ科牧草見本園



播種後のデントコーン見本園

イネ科牧草ではチモシー各種をはじめ、オーチャード、ライグラス類、フェストロリウムなどを熟期に沿って播種しています。マメ科牧草については、アルファルファ、クローバ類を熟期に沿って播種しています。デントコーンについては管内の栽培を参照して、同品種の生育をマルチングのあり、なしで比較できるように播種してあります。

どの品種もその年の気候や土壌の影響を受けて、例年同じようには生育しませんが、そのような様子を生徒への教材としても活用して、授業で生育調査や簡易サイレージ製造実習も行っていく予定です。

### ●【経営科】チーズ熟成中

酪農経営科では授業や専攻班活動などで年間をとおして乳製品製造を行っています。



熟成中のセミハードチーズ

乳製品加工班では地域の放牧酪農家より、良質の生乳を購入し、チーズ製造を行っています。放牧草に含まれる成分の影響で、非常に黄色みを帯びたチーズとなります。季節に応じて放牧原料乳の成分が変化しますが、その生乳の変化はチーズにも移行され、季節毎のチーズの風味を楽しめます。これから放牧の盛んな季節となり、生徒達は良質な原料乳が手に入るこれからのチーズ製造を楽しみに待ちわびています。

### ●専攻科【修了研究活動紹介】

例年2年目学生が1年間自家の課題解決のための研究「修了研究」に取り組んでいます。今回は2年目学生がどのようなテーマで研究に取り組んでいるかをご紹介します。

「搾乳牛の配合飼料給与調整による影響について」、「フリーバーン機能の確認と維持について」、「BCSとTMRの見直しについて」の以上3つのテーマで、10月まで研究を進めていきます。今後の発表会の日程は、修了研究活動中間発表会は8月21日(金)、修了研究活動発表会は11月27日(金)に開催を予定しています。是非来校され皆様方よりご批評を頂きたいと存じます。よろしくお願いいたします。



修了研究活動の様子

### ●専攻科【専攻科の紹介】

農業特別専攻科は、全国に5校しかない教育機関であり、本科は専門的に酪農を学びます。

入校は高等学校を卒業している人であれば、年齢制限はなく、酪農業務に従事している人も入学可能です。

履修科目は、基礎的な酪農概論から乳牛飼養学・家畜繁殖学などの専門科目、酪農技術現地研修・機械・施設学・疾病学等では校外研修を実施、酪農科学実験や加工実習などの実験実習科目も学べます。

基本時間は、1時間目10時50分～12時20分、2時間目は13時5分～14時35分で、講義は連続形式（1科目あたり15日間）と集中形式（丸一日を数日間）とがあり、それぞれ科目で違います。

また、外部機関でトラクタ基本操作の研修や人工授精・家畜商等の資格も取得できます。

農業特別専攻科では、地域とのつながりを大切にしながら教育活動を行います。皆さんも、年齢や性別を超えた仲間づくりをしてみませんか。



昨年度トラクタ基本操作の様子



昨年度酪農現地研修の様子

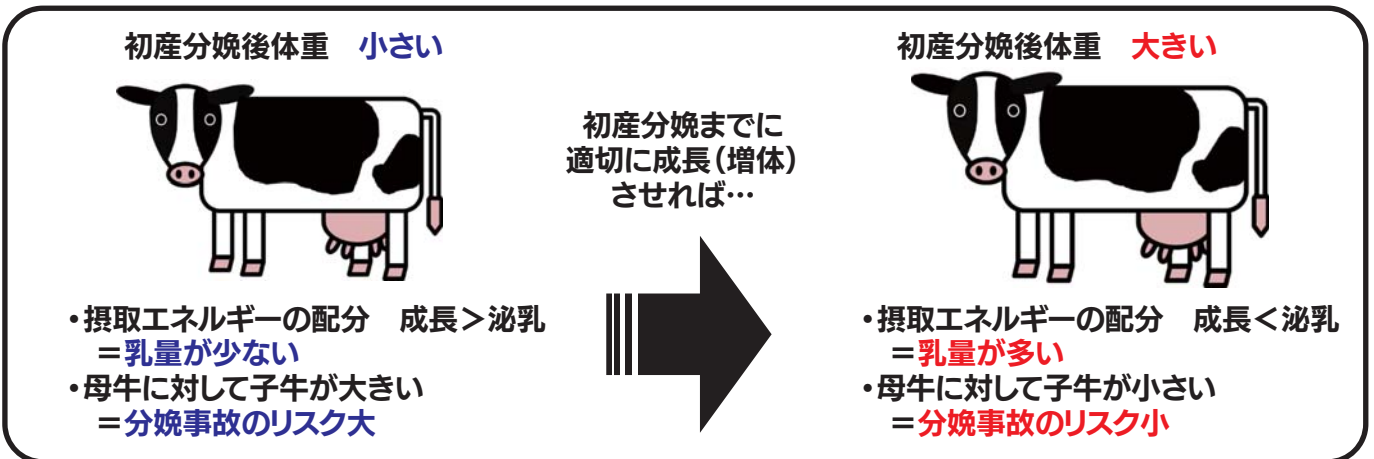


## 初産次乳量を高めるための 初産分娩後の目標体重

営農のページ

【酪農試験場】

初産牛は遺伝的改良が進み、将来の高泌乳が期待できる後継牛です。しかし、2産以上の経産牛と比べると、初産牛の305日乳量は約1,500kg低く、難産や死産の発生率は1.5倍以上です。初産牛の乳生産を高めることで牛群全体の乳生産の底上げが可能になります。



### ■ 初産分娩後体重は550～650kgが目標

全道牛群検定成績（2011～2015年）と酪農試の初産牛172頭で、初産分娩後体重と乳生産等の関係を調べました。初産分娩後体重が大きいほど、初産次の305日乳量が多い傾向にあります。しかし、体重550kgを超えると乳量の増加量は小さくなり、体重が650kg以上ではほぼ一定でした。また、分娩後体重が475kg未満と小さい場合には死産の発生率が10%以上と高い値でした。逆に、分娩後体重650kg以上では、分娩前のボディコンディションスコアが3.75以上で太りすぎの牛が多く、分娩前後の摂取量が低く、難産の発生率が高まりました。乳量向上とともに、過肥や難産等を減らすためには、初産分娩後の体重は550～650kgが目標です。

### ■ 初回授精までの日増体量の向上が重要

胎児・胎盤・羊水等を合わせた重量は約75kgなので、初産分娩後体重が550～650kgの場合、分娩前の体重は625～725kgになります。生時体重が45kg、初産分娩月齢が24ヶ月のとき、発育目標別に育成期に必要な日増体量は表の通りです。

現状の発育目標は14ヶ月齢で350kgなので、初産分娩後体重を600kgにするためには、14ヶ月齢時から初産分娩までに1kg以上の日増体量が必要になります。しかし、育成後期（初妊期）に1kg近い増体をさせると、体脂肪が蓄積しやすく、太る可能性が高いです。発育目標を12ヶ月齢で375kgにすると、育成後期の日増体量を抑えることができます。太らせずに初産分娩後体重を大きくするためには、初回授精を行う12～14ヶ月齢頃までの日増体量を高めることが重要です。

発育目標	現 状			早期高増体		
	14ヶ月齢・体重350kg			12ヶ月齢・体重375kg		
初産分娩前体重 (kg)	625	675	725	625	675	725
初産分娩後体重 (kg)	550	600	650	550	600	650
日増体重 (kg/日)						
生時～発育目標時	0.71			0.90		
発育目標時～初産分娩	0.90	1.06	1.23	0.68	0.82	0.96

初産分娩まで十分に成長させておくことで、初産次の乳量の向上に加え、分娩事故のリスクが減ります。体重は体重計で実測する以外に、体重推定尺（胸囲）やヒポメーター（寛幅）を使って推定することができます。

# JAグループ通信

## JA北海道中央会



新型コロナウイルス感染防止のためテレビ会議システムを活用した中で、5月13日に北海道農協酪農畜産対策本部委員会と生乳受託販売委員会の合同会議を開催し、新型コロナウイルス感染拡大に関する対応、及び令和3年度酪農畜産政策・価格対策に向けた対策等について協議しました。

新型コロナウイルスによる牛乳・乳製品の需要低下に対しては、乳業者等と連携を図り生乳処理の最大化を図るとともに、国の緊急対策を活用した消費拡大・需給調整対策を実施することとしました。

また、今後農林水産省に対し酪農畜産分野の懸念事項を踏まえ、必要な対策を継続して要請することとしました。

令和3年度に向けた酪農畜産政策・価格対策については、組織討議の内容を踏まえ、7月上旬に開催する道酪畜対で、概算要求に向けた政策提案の内容を決定いたします。なお、新型コロナウイルスによる国内経済への影響が長期化した場合、さらなる牛乳・乳製品の需要低下が懸念されることから、酪農生産基盤を棄損させないよう国の緊急対策も踏まえ、万全な需給安定の仕組みの構築を強く要請することを確認しました。



## JA北海道信連



2008年度から全国の子どもたちに向けて食農教育等の取組みを実践する「JAバンク食農教育応援事業」を展開しています。本事業の一環として、子どもたちが食・環境と農業への理解を深めるきっかけとなることを願い、小学5年生を中心とする高学年向けの補助教材「農業とわたしたちのくらし」を作製しています。道内においては、本年度約5万部の冊子とDVDを全道の小学校へ贈呈いたしました。



## JA共済連北海道



JA共済では「家族みんなで健やかに、安全に。『おうち時間を充実させよう!』」をテーマに、JA共済のホームページに様々なお役立ちコンテンツをご用意しております。コンテンツは、○おうちでできる健康増進活動 ○おうちでじっくり、交通安全を学ぼう ○おうちの防犯、コロナ詐欺が増えています ○健康・介護ほっとラインをご紹介します。

外出自粛中にご自宅で「健康で安心して過ごしていただく」、「子どもたちが楽しく交通ルールを学べる」取り組みとしてぜひご活用ください。



## ホクレン



ミルクランド北海道（事務局・ホクレン）は、新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化した4月下旬から5月にかけて、医療スタッフへの感謝と、子どもたちの健康増進を願う気持ちを込めて、道内医療機関や札幌市内の保育園、幼稚園などに200mlパック換算で計16万本相当の牛乳を無償で提供しました。またホクレンは、厳しい社会状況の中でも、ひたむきに農作業を続ける道内生産者の姿を伝えようと、ホクレンアンバサダーの森崎博之さんを起用したテレビCM＝写真＝を制作、道内民放各局で放映しました。



## JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



JAグループ北海道の連合会の活動内容をご紹介します。各団体の詳しい取り組み内容は、WEBサイトをご覧ください。



# 北海道地域農業研究所だより

一般社団法人 北海道地域農業研究所

## 「農事組合だより」を知っていますか？

改名150年を記念して『北海道現代史』の編纂が始まっている。第二次大戦後から2000年までが対象期間であり、私は産業・経済編の農業を担当している。資料編をまず作るということで、いろいろな資料を物色しているが、前から気になっていた『農事組合だより』という雑誌を繙（ひもと）いている。

北海道の農業関連雑誌は、現在では『ニューカントリー』、『農家の友』、『デーリーマン』など数少なくなっているが、以前には『北方農業』や『酪農ジャーナル』など他県と比べてユニークな雑誌がたくさんあった。その中で、『農事組合だより』は1957年（昭和32年）に創刊されて、2000年頃まで発行されていた息の長い雑誌であった。当初は、道庁の農業改良課により1956年に『北海道経営だより』として刊行され、翌年に北海道農業自立推進協議会が出版元となった。

この時期は北海道農業も頻発する冷害に脅かされており、当時の農政としては新農村建設運動に取り組むなど、一時期GHQによって活動を制限された部落を新しい拠点として村づくりを始めようとしていた。この

雑誌は「部落に一冊」配布することから出発したのである。1961年（昭和36年）の農業基本法の制定により、近代化農政が開始され、紙面の内容も部落生産活動、村づくり活動、人づくり家づくり活動から農業近代化、共同化、法人化へと領域を変化させていく。さらに、1980年代には営農集団に関する記事が増えてくる。

そのあとは、1959年（昭和34年）から開始され、息長く続き、同窓会組織までできた移動村づくり大学に関する記事、1968年に設立された北海道農業法人青色申告会関連の記事などが継続的に掲載されている。

現在の農家戸数の異次元ともいえる減少のなかで、地域農業を存続・維持させるためには、北海道で長年培われてきた集落づくりや法人化手法を振り返ることは大きな意義を持つであろう。実は北海道立図書館には『農事組合だより』は全体の40%しか収蔵されていない。所在をご存じの方がいらっしゃったら、連絡をお願いしたい。（研究所長 坂下 明彦）

## 自己紹介

4月に当研究所に着任しました近藤好弘と申します。昭和58年にホクレンに入会し、これまで酪農部門での仕事が長く、直近は農業総合研究所に勤務しておりました。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

ご案内の通り、新型コロナの影響であらゆる社会生活、経済活動が制限されるなか、農業に対する影響も甚大なものとなっています。

農業は自然相手、生き物相手ですから、販売環境や労働環境が大きく急激に変わろうとも、作業スケジュールや生産量を変えることはできず、生産者の方々が

大変なご苦労をされていることを考えると、本当に頭が下がります。

何が起こるか分からないからこそ、世の中、いろんな意味でのセーフティネットが極めて重要であります。国は、特に医療体制や食料の生産に関わるセーフティネットについて、たとえ活用頻度が少ないなどの非効率な面があったとしても、生命に関わる対策として、決して削減してはいけないものだと、改めて痛感している次第であります。（参与 近藤 好弘）

発行：一般社団法人 北海道地域農業研究所

電話番号 (011)757-0022

ホームページアドレス <http://www.chiikinouken.or.jp/>

閲覧可能書誌 『地域と農業』・『地域農業研究年報』・研究叢書・学術叢書・研究報告書

2020年5月

# 草地更新時の除草剤散布は タイミングが命！

営農のページ  
【普及センター】

草地更新（以下更新）の目的は収量の増加や植生改善を行うためですが、その反面、多額の費用と時間がかかるため、「更新直後から雑草が多い！」など更新の失敗は大きな損失になります。ここでは、除草剤を上手に活用し、雑草の少ない更新のポイントについてご紹介します。

## I 前植生処理

更新する草地の既存植生を枯殺処理（グリホサート系除草剤など）してから耕起または表層攪拌しては種する方法です（写真1）。

地下茎型イネ科雑草（シバムギ、リードカナリーグラスなど）は長い地下茎を持つ（写真2）ため、耕起作業の前に除草剤により十分に枯死させる必要があります。



写真1 前植生処理による既存植生の状態



写真2 シバムギの長い地下茎

### ～ポイント～

- ① 除草剤散布時の草丈は、シバムギ40cm、リードカナリーグラス60cm程度を目安にする。
- ② 除草剤散布から耕起までの期間は、最低10日間空ける（地下茎に除草剤を十分に行き渡らせるため）（図1）。

	6月	7月	8月	9月
地下茎イネ科雑草 (シバムギ、リードカナリーグラス)	1番草収穫	除草剤散布	10日間以上空ける ←→	耕起・整地 施肥 は種 鎮圧

図1 前植生処理の工程

## II は種床造成後処理（は種前処理、は種同日処理）

は種床造成後、土中の雑草種子を発芽させ、それらに除草剤を散布してからは種する方法です（写真3）。イネ科雑草のほかギシギシ、アカザなどの広葉雑草も対象です。



写真3 は種床造成後処理による雑草発芽後の状態

### ～ポイント～

- ① は種床を作った後、一定期間（40～60日間）置き、雑草が生え揃うのを待って除草剤を散布します。
- ② 除草剤散布後、当日～10日以内には種を行います。

## III 前植生処理とは種床造成後処理を組み合わせた方法

特にリードカナリーグラスが優先した草地では、先述したIとIIを組み合わせると効果的です。その場合、9月下旬以降（2番草収穫から約20～30日後（草丈20～50cm））に除草剤散布を行います。

理由は、リードカナリーグラスが越冬のため栄養を地下茎に貯めるのを利用して、植物体全体に除草剤を行き渡らせるためです。

翌春には種床造成を行い、残った土中の雑草種子を発芽させます。発芽した雑草に除草剤を散布して枯死させ、遅くとも10日以内に牧草種子をは種します。デメリットとしては、草地を利用できない期間が長くなるので計画的に更新を行う必要があります。

※薬量等の詳細につきましては、JAまたは普及センターまでご相談ください。

## 第2回理事会報告 令和2年5月8日開催

- 議案第1号 「独立監査人の監査報告書」及び「監事の監査報告書」について  
 議案第2号 決算書類の承認について  
 議案第3号 第11回通常総会に係る提出議案について
- 協議事項1 第11回通常総会議事運営について  
 協議事項2 新型コロナウイルス感染症警戒期に係る地区懇談会・第11回通常総会の開催運営方針について

- 報告事項1 第11回通常総会表彰者について  
 報告事項2 令和元年度乳検事業概要について  
 報告事項3 令和2年度新規就農者激励状贈呈事業対象者について  
 報告事項4 令和元年度株式会社ASAHIサポートセンターの事業報告及び収支決算について  
 報告事項5 令和2年3月末財務の動向について

## 第3回理事会報告 令和2年5月26日開催

- 議案第1号 北海道常例検査結果指摘事項に対する改善状況等の報告について  
 議案第2号 不良債権の処理方針について  
 議案第3号 員外者に対するJA農業経営ステップアップローンの貸付について  
 議案第4号 特別当座貸越の貸付について  
 議案第5号 一般組合員に対する農業経営基盤強化資金（信連委託貸）の事務取扱について  
 議案第6号 一般組合員に対する農業経営基盤強化資金の借入と貸付について  
 議案第7号 新規就農組合員に対する青年等就農資金（信連委託貸）の事務取扱について
- 協議事項1 令和3年度酪農畜産政策・価格対策に係る意見集約について  
 協議事項2 持続的な北海道農業の確立に向けた意見集約について  
 協議事項3 別海町農業者年金協議会代議員の推薦について

- 報告事項1 貸借対照表及び損益計算書（4月末）について  
 報告事項2 組合員の動向（4月末）について  
 報告事項3 融資審査会の結果について  
 報告事項4 定款第57条第6項に基づく貸出金に係る理事会承認案件の処理状況について  
 報告事項5 特定組合員実績（4月末）について  
 報告事項6 令和元年度（西暦2019年度）畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業に係る入札結果について  
 報告事項7 令和2年度矢白別演習場周辺地区施肥業務の入札結果について  
 報告事項8 北海道酪農体質強化対策事業に係る令和元年度実績と令和2年度計画について  
 報告事項9 販売事業実績（4月末）について  
 報告事項10 購買事業実績（4月末）について  
 報告事項11 行事予定について  
 報告事項12 新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る輪番（スプリット）体制の終了について



### まちがいさがし

出題・イラスト：酒井栄子

右のイラストには左のイラストと違う部分があります。間違っている部分を左下の枠内の数字で探しましょう。



### 応募方法

- ・道東あさひHP応募フォームに、クイズの答え・お名前・電話番号を明記してお送りください。
  - ・一世帯につき一応募のみ有効とさせていただきます。
  - ・正解者の中から抽選で毎月5名の方に、すてきなプレゼントをご用意いたします。
  - ・応募締め切りは、6月20日まで（期日必着）
  - ・今月の答えは7月（中旬）にHPにて掲載します。
- <http://www.ja-doutouasahi.or.jp>



## 4月 生乳生産・乳代単価情報

※当月の乳代平均は、共販経費（4.10円）控除前です。

区分	4月	累計	脂肪率	無脂固形分率	補給金単価	FAT単価	SNF単価	乳質単価	乳代平均
全道	331,737t	331,737t	3.98%	8.79%	8.83円	38.09円	53.18円	3.75円	103.85円
前年(比)	103.3%	103.3%	3.98%	8.77%	8.62円	36.89円	51.53円	3.76円	100.81円
根室管内	68,601t	68,601t	4.02%	8.72%	8.83円	38.47円	52.76円	3.79円	103.84円
前年(比)	104.1%	104.1%	4.01%	8.72%	8.62円	37.23円	51.20円	3.79円	100.83円
JA道東あさひ	30,019t	30,019t	4.04%	8.72%	8.83円	38.58円	52.71円	3.78円	103.90円
前年(比)	104.1%	104.1%	4.02%	8.72%	8.62円	37.30円	51.22円	3.77円	100.91円
西春別支所	7,701t	7,701t	3.96%	8.69%	8.83円	37.90円	52.58円	3.79円	103.09円
前年(比)	101.8%	101.8%	3.97%	8.73%	8.62円	36.78円	51.29円	3.74円	100.43円
上春別支所	5,602t	5,602t	4.02%	8.76%	8.83円	38.47円	52.97円	3.89円	104.16円
前年(比)	102.1%	102.1%	4.00%	8.78%	8.62円	37.10円	51.57円	3.78円	101.08円
別海支所	12,495t	12,495t	4.07%	8.71%	8.83円	38.91円	52.67円	3.73円	104.14円
前年(比)	104.6%	104.6%	4.06%	8.69%	8.62円	37.63円	51.05円	3.75円	101.05円
根室支所	4,221t	4,221t	4.08%	8.72%	8.83円	39.01円	52.71円	3.76円	104.31円
前年(比)	109.9%	109.9%	4.05%	8.70%	8.62円	37.57円	51.09円	3.90円	101.19円

令和元年度10月分乳代精算より軽減税率導入にともない、総額主義が義務化されたため、総支払乳代は共販経費控除前の単価となっています。

## 今月のあなたの運勢 6月 モナ・カサンドラ

<p><b>♈ 牡羊座</b> 3/21~4/19</p> <p>【全体運】コミュニケーションが活発化する中、行き違ひも増えそう。約束は時間や待ち合わせ場所などきちんと決めて</p> <p>【健康運】フットケアを重点的に。つぼ押しも◎</p> <p>【幸運の食べ物】梅</p>	<p><b>♉ 牡牛座</b> 4/20~5/20</p> <p>【全体運】楽しい話題が多く心弾みそう。買い物は念入りな下調べで満足度が大幅アップ。お得情報は身近なところに</p> <p>【健康運】エクササイズは本やネット動画を参考に</p> <p>【幸運の食べ物】シントウ</p>	<p><b>♊ 双子座</b> 5/21~6/21</p> <p>【全体運】主役運が巡ってきています。身だしなみはおしゃれを意識して流行のアイテムをプラス。うれしい出来事あり</p> <p>【健康運】食べ過ぎに注意。食事はバランス良く</p> <p>【幸運の食べ物】大葉(シソ)</p>	<p><b>♋ 蟹座</b> 6/22~7/22</p> <p>【全体運】ほっと一息つける穏やかな運氣。趣味やティータイムを楽しんで。感性も豊かに。美術や音楽鑑賞にも最適</p> <p>【健康運】体調不良は改善へ。シェイプアップも吉</p> <p>【幸運の食べ物】オクラ</p>
<p><b>♌ 獅子座</b> 7/23~8/22</p> <p>【全体運】予定通りに進まなくても慌てないで。スケジュールを調整すれば何とかなります。笑顔が幸運を招く鍵</p> <p>【健康運】散歩など、手軽に始められる運動を</p> <p>【幸運の食べ物】イワシ</p>	<p><b>♍ 乙女座</b> 8/23~9/22</p> <p>【全体運】問題多発の気配。周囲の言葉に耳を傾け、改善策を講じましょう。粘り強さを発揮すれば結果は付いてきます</p> <p>【健康運】無理は禁物。疲れを残さない日程を</p> <p>【幸運の食べ物】サクランボ</p>	<p><b>♎ 天秤座</b> 9/23~10/23</p> <p>【全体運】梅雨の晴れ間のような爽やかな運氣です。高めの目標を設定して頑張れば、うれしい成果が。説明は丁寧に</p> <p>【健康運】シーツや枕カバーは小まめに洗濯を</p> <p>【幸運の食べ物】インゲン</p>	<p><b>♏ 蠍座</b> 10/24~11/22</p> <p>【全体運】上昇運です。計画推進に力を入れればゴールは間近。状況を再分析しての見直しは吉と出ます。連絡は早めに</p> <p>【健康運】体を動かすほど元気でいられます</p> <p>【幸運の食べ物】キス</p>
<p><b>♐ 射手座</b> 11/23~12/21</p> <p>【全体運】運勢は吉凶混合。丸ごとうまくはいかないので良い方は伸ばし、攻められたら防戦を。めりはりが大事</p> <p>【健康運】帽子や日傘で紫外線対策をして安心</p> <p>【幸運の食べ物】トマト</p>	<p><b>♑ 山羊座</b> 12/22~1/19</p> <p>【全体運】運勢は次第に荒れ模様。情報はまず出どころを確かめて。迷ったときにはパートナーに判断を任せるのが良さそう</p> <p>【健康運】人気のストレッチメニューを試して</p> <p>【幸運の食べ物】エダマメ</p>	<p><b>♒ 水瓶座</b> 1/20~2/18</p> <p>【全体運】パワフルに動き回れる好調運。優先順位を考えて効率良く動きましょう。見晴らしの良い開けた場所にツキ</p> <p>【健康運】外出後はうがい、手洗いを忘れずに</p> <p>【幸運の食べ物】ピワ</p>	<p><b>♓ 魚座</b> 2/19~3/20</p> <p>【全体運】あれもこれもやらなければと気負い過ぎてリズムを乱してしまえそう。できそうにないことは早めに断りを</p> <p>【健康運】旬の食材を取り入れた食事が元気の源</p> <p>【幸運の食べ物】ドジョウ</p>



令和2年6月10日発行  
発行/JA道東あさひ  
編集/営農部 営農振興課  
住所/北海道野付郡別海町  
別海緑町116番地9  
電話/(0153) 75-2201(代表)  
ホームページ  
<http://www.ja-doutouasahi.or.jp>  
メール/kikaku@ja-doutouasahi.or.jp

営農部 岡本

**編集局から**

世の中には多くの標語があります。北海道のホームページで見つけたこの標語に唸りました。「まさかはずやってくる。」まさかブラックアウトが起こるなんて。まさか新型コロナウイルス感染症で日常生活が制限されるなんて。思い起こせば、近年まさかの連続ばかりでした。ここ最近、各地で地震が頻発していることが個人的にとっても気になっていきます。千島海溝沿いの根室沖で想定される巨大地震の発生確率は、今後30年以内に80%まで引き上げられました。とてつもない確率で現実味を帯びませんが、「まさかはずやってくる。」を肝に銘じて、日頃から備えようと思った出来事でした。